



壁や板に吹き付けると黒板のように使える塗料の説明を聞く来場者

1年かけ企画、開発、発掘

平塚の逸品 32点を発表

平塚市を中心に伊勢原市や大磯町の小売業や飲食業の店主らでつくる「平塚逸品研究会」は、会員各店が一年かけて企画、開発、発掘した「お勧めの逸品」を発表した。今年で五回目。平塚商工会議所で開かれたお披露目会では、「生活を楽しく、さらに豊かに」を掛け声に、会員が互いに意見を出し合って選んだ計三十二点が並んだ。

(吉岡潤)

お披露目会の来場者約二百五十人の人気投票で食品部門一位に輝いたのが、障害者の就労を

支援する事業所「サンメッセしんわ」(平塚市高根)が作る「湘南みかんぱん」。大磯、二宮両町で摘果した青摘みミカンの果汁が生地とあんに練り込んである。職員の三浦昌弘さん(四七)は「食べると『意外』という反応が多い。おいしくて、見た目も楽しい」と説明する。

食品以外の部門一位は、コーヒー豆販売「いつか珈琲屋」(平塚市河内)が企画したコーヒーをめぐる講習会。店主の加藤日出夫さん(六三)が先生役となり、おいしい飲み方、新しい味の発見について勉強する。

このほか、簡単でかわいく実用的な家具を作る女性限定の木工教室、サッカーJ1のベルマーレが試合や練習を行うグラウンドで刈った芝と役所や役場の



お披露目会の人気投票で1位になった「湘南みかんぱん」=いずれも平塚市で

食品部門 1番人気は「みかんぱん」

シュレッターくずを混ぜて再利用した名刺、壁や板に吹き付けて黒板として使えるようにする塗料、地元の野菜や魚を生かした各種新メニューなど多彩だ。研究会のアドバイザーを務める地域デザイン研究所主宰の飯尾紀彦さん(五七)は「研究会を始めて五年以上たち、体験型の商品など変化も出てきた。お客さんと提供する側が楽しいと共鳴できる商品がそろっている」と評した。

逸品を紹介する冊子を無料配布中。五店を回ると、各店で利用可能な最高五千円分の「逸品券」などが当たるスタンプラリーを二月末まで行っている。問い合わせは、平塚商工会議所商業支援課☎0463(22)25111へ。